

筆描き七宝釉薬



筆描き七宝は、描画用の七宝絵具です。細かいガラス粉末なので、水溶性メディウム等でお好みの粘度に溶いて使用して下さい。溶いたものをそのまま使えば油絵のように、水で薄めれば水彩画のような表現が可能です。普通の七宝絵具では表現が難しい微細な線も思いのままです。また、混色をすることで、幅広くいろいろな色を作ることができます。

| 品番 | 品名 | 10g | 100g | 300g | 500g | 1kg |
|------|------------|--------|---------|---------|---------|---------|
| H-Gr | グリーン | 900. | 7,200. | 1,8900. | 27,000. | 45,000. |
| H-Bu | ブルー | 900. | 7,200. | 1,8900. | 27,000. | 45,000. |
| H-Y | イエロー | 900. | 7,200. | 1,8900. | 27,000. | 45,000. |
| H-R | レッド | 1,000. | 8,000. | 21,000. | 30,000. | 50,000. |
| H-W | ホワイト | 1,000. | 8,000. | 21,000. | 30,000. | 50,000. |
| H-B | ブラック | 1,000. | 8,000. | 21,000. | 30,000. | 50,000. |
| HMG | メタリック・ゴールド | 1,200. | 9,600. | 25,200. | 36,000. | 60,000. |
| HMS | メタリック・シルバー | 1,500. | 12,000. | 31,500. | 45,000. | 75,000. |
| HMB | メタリック・ブルー | 1,200. | 9,600. | 25,200. | 36,000. | 60,000. |
| HMP | メタリック・ピンク | 1,200. | 9,600. | 25,200. | 36,000. | 60,000. |

★筆描き七宝は、広沢七宝のオリジナルブレンドです。

★筆描き七宝に、水溶性メディウムを少量混ぜ、パレットナイフで良く練って、七宝面に塗ってください。

★しっかり乾かした後、750~800℃にて焼成。

★レッド以外の各色は混色が可能です。(右 図1の色相環参考)

★レッドは他色絵具との混色は出来ません。他色絵具との混色は硫化鉛を形成することで、赤色素を破壊し、全体が赤黒くなります。

★各色、ホワイトとブラックとの混色は可能です。(下 図2参考)

淡い色や渋い色を作ることができます。

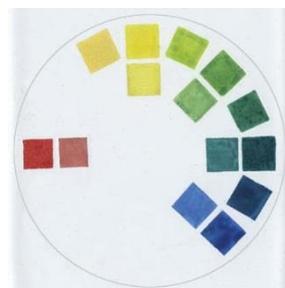


図1 色相環

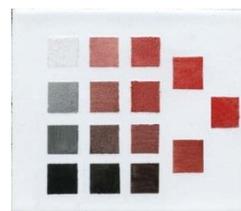
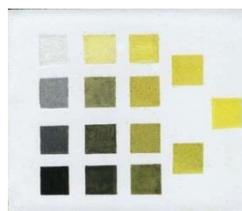
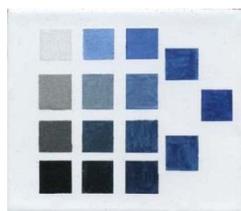
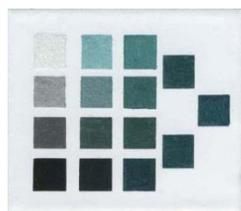


図2 各色のトーン分類

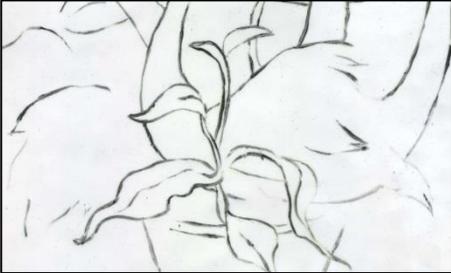
| 品名 | 5個未満 | 5個以上 | 10個以上 |
|-------------------|---------|---------|---------|
| WME 水溶性メディウム 40g瓶 | @1,300. | @1,200. | @1,100. |
| パレットナイフ(国産) | @400. | @360. | @320. |

※パステルペーパーを使用すると、画用紙のようににじまったりぼかしたりすることも出来ます。

| 品名 | サイズ | 5枚未満 | 5枚以上 | 10枚以上 | 30枚以上 |
|----------|-----------|-------|-------|-------|-------|
| パステルペーパー | 215×285mm | @600. | @540. | @480. | @420. |

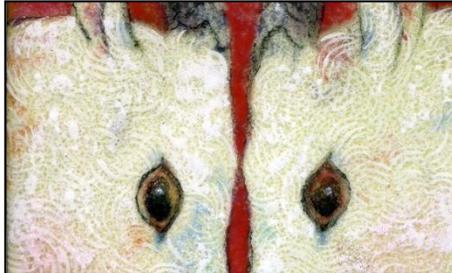
筆描き七宝釉薬

— 使い方のご紹介 —



下書き線に

カーボン紙を使用して、七宝面にデザインを写し、その線の上から筆を使って描きます。約750℃で焼成。
※線画がぼやける原因になるので、焼成回数と温度に注意して下さい。



仕上げ線に

通常の七宝釉薬よりも細かい線が描けるので、最後の仕上げの線に使用できます。ブラックは輪郭など、ホワイトは、毛の流れやハイライトなどにオススメです。



アクセントに

七宝完成後にアクセントに模様を描き入れるのもオススメです。
※メタリック系カラーにホワイトを混ぜると下地が濃い色でも透けにくい。



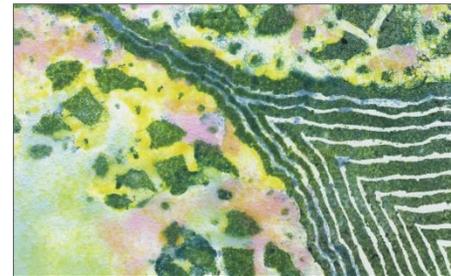
混色して油絵のように

赤以外は混ぜて使用出来るので、混色して様々な色を作ることができます。七宝釉薬にはない複雑な色も作れるため、表現の幅が広がります。
※厚く塗りすぎないように注意する。



水彩画のように

ベースにパステルペーパーを使用するとまるで画用紙のようににじみやぼかしが出来るようになります。水に入れ台紙をはがしたパステルペーパーをホワイトベースに乗せて乾かした後、水を多めに含ませた筆書き七宝にて彩色。



書き割りに

通常の七宝釉薬よりも粒子が細かい為、書き割りをしやすいのでオススメです。白や七宝釉薬で作ったベースの上から筆描き七宝にて彩色ししっかり乾かしてから竹串などで書き取り、その後焼成します。

～水彩画の技法で七宝にアクセントを～



たらしこみ

ベースにパステルペーパーを使用し、画面にたっぷり水を塗りつけます。水が乾かないうちに、水で十分に薄めた筆描き七宝をそっと画面に置きます。水ではなく、筆描き七宝の色水を下地に使用しても複雑なにじみ模様が画面に生まれます。

吹き散らし

水で薄めた筆描き七宝を一滴たらし、細い筒状のもので息を強く吹きかけると絵具が散り、面白い模様になります。側面から吹きかけると樹枝状に広がり、真上から吹くと四方八方に飛び散り花火のような模様ができます。

用途が多い筆描き七宝釉薬を取り入れることで、幅広い表現が可能になります。ぜひ、いろいろ試してみてください。



(作品例)

七宝完成後に、模様の周りをメタリック・ゴールド、ブルー、ピンクにて縁取り。